



日本医療バランスト・スコアカード研究学会

ニューズレター

第 27 号 平成 23 年 12 月 4 日発行

発行 HBSC 学会事務局

発行責任者 渡辺 明良

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町 1-11-1

DSM 神保町ビル 6 階

TEL 03-6273-7870 FAX 03-6273-7871

e-mail : info@hbsc.jp [URL:http://www.hbsc.jp](http://www.hbsc.jp)

【 巻頭言 】

日本大学医学部 教授、駿河台日本大学病院 副院長 高橋 昌理

第 10 回日本医療バランスト・スコアカード研究学会学術総会の開催について

このたび、第 10 回日本医療バランスト・スコアカード研究学会学術総会を主催させていただき事になり大変光栄に存じます。開催概要は以下の通りです。

開催テーマ：病院のガバナンスと医療 BSC

開催日：2012 年 10 月 27 日（土）

開催場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

病院経営における成功の要諦はどの時代においてもトップマネジメントによる適切なガバナンスにあると考えられます。トップマネジメントが良いガバナンスを実現できれば、時代に合わせて患者の視点から病院の理念を問い直し、戦略目標を定め、職員の学習意欲を高め、業務の改善、顧客の満足、経営の改善へと導くことが可能となります。そして BSC はそれを動かすツールであるといえます。それではトップマネジメントによるガバナンスをより適切に行うにはどのようにすれば良いのでしょうか？

病院のガバナンスと医療 BSC をテーマに選んだ背景には私が大学病院に勤務し感じている問題があります。通常、病院経営においては院長の経営に対する確固たる意志が最も重要な成功要因とされています。しかし総合大学の大学病院では医師であり教職でもある病院長の権限が曖昧です。つまり大学の医師は教員でもあるため教育と学問を運営する権限 (teaching right) は与えられていますが、原則として経営権 (management right) は与えられておらず、基本的経営権は大学全体の理事会にあります。ところが大学理事会は病院経営に特化したものではありません。したがって病院長は経営権が不明確なまま経営責任を問われる立場にも立たなければならず、確固たる意志が打ち出しにくいところがあるのです。これは地方公営企業法の全部適用となっていない自治体病院院長の立場と類似しています。また病院経営に精通したプロの事務管理職を求めるのが難しいところも自治体病院と共通していると思われます。なぜなら事務職幹部には勤務のローテーションがあり病院経営に特化したトレーニングを蓄積できないからです。この問題のブレークスルーが多くの公的病院、そして国公立大学病院の経営改善において重要かつ喫緊の課題と言えるのではないのでしょうか。それを解決して病院経営を近代化、黒字化すれば雇用促進や設備投資が生まれ 35 兆円を超えて財源が問題化している医療費を、医療産業という生産性の高い事業に投資するお金に変化させられるのではないかと考えます。

今回の学術総会のテーマは言い換えれば有効に機能すべき医療 BSC が現実に稼働しにくい病院について、経営権者によるガバナンスの改善をどう行うのか。また新たな課題や視点の発見がある現場からのボトムアップとガバナンスをどうバランスするか。経営形態の異なる病院からの発表を通して、また企画シンポジウムを通して考えてみたいと思います。

学会事務局からのお知らせ

1. 第9回学術総会を終えて

平成23年10月1日。

曇天ながら、一番心配していた台風や雨の影響もなく、早朝より日本全国、台湾、韓国から大勢の皆様のご参加によりまして、無事に学会を開催することが出来ました。有難うございました。

参加者は335名で、特別講演、シンポジウム、ランチョンセミナー3演題、一般演題は口演発表23演題、ポスター発表24演題となり、学術総会全体の演題数が史上最多?の55演題にも達し、活発な討論で盛況のうちに学会を終了しました。改めて参加して頂いた会員の皆様に感謝申し上げます。



病院経営の戦略マネジメントとしてBSCを活用、進化させながら、医療の質向上にも寄与するBSCの有用性が会員の皆様に共通認識されたと思います。

学会終了後の懇親会は、強風のためプールサイドでの開催は中止となり、ラグナガーデンホテル内の宴会場へ変更となりましたが、200名近くの参加がありました。地元歌手・しゃかりによるミニライブ、青年会によるエイサー踊りを観賞しながら、沖縄料理を主とした料理に舌鼓をうちながら、参加者の皆様との交流を深めました。また、沖縄の宴席の最後には、皆で喜びを分かち合う「カチャーシー踊り」の伝統があり、懇親会の閉幕の際にも、参加者全員でカチャーシーを踊り、会場が一体となり大いに盛り上がりました。



そして、来年、10月27日(土)に東京で開催されます第10回記念の学術総会(学術総会会長:日本大学医学部教授、駿河台日本大学病院高橋昌里副院長)での再会を胸に閉会致しました。

社会医療法人敬愛会 BSCセンター長
ちばなクリニック院長 仲田 清剛

2. 理事会・評議員会のご報告

平成23年9月30日(金)に第24回理事会・第13回評議員会をラグナガーデンホテル 平安の間にて開催いたしました。理事会では、各委員会の活動報告、第9回学術総会準備報告が社会医療法人敬愛会 ちばなクリニック 院長の仲田清剛理事(本学会理事)により詳細な準備状況が報告されました。その他、新規入会者の承認、HBSC認定指導者の試験実施結果報告がなされ異議なく承認された。評議員会では、第10回学術総会会長が高橋昌理先生(大駿河台日本学病院 副院長)にお引受けしていただいたこと、同時に高橋先生から来年は10月27日に東京代々木の国立オリンピック記念青少年総合支援センターで学術総会を行いたいということが報告されました。また、次期役員選出がおこなわれ承認された。会長には高橋淑郎理事が推薦され承認されました。

【会員数報告】

個人正会員 337名

賛助会員 34団体

(2011/8/31 現在)

【各委員会活動報告】

● 企画研修委員会

- ・ HBSC認定指導者講習会の検討・実施
- ・ 導入ワークショップの検討・実施
- ・ フォーラムの検討・実施
- ・ 次年度事業計画と予算の検討

● 研究委員会

- ・ 23年度の研究調査概要の検討・準備・実施

● 雑誌編集委員会

- ・ 学会誌第8巻1号の編集作業・発行
- ・ 学会誌第8巻2号の原稿収集・編集作業・発行

4. BSC導入ワークショップ開催のお知らせ

以下の日程でBSC導入ワークショップを開催いたします。BSC導入ワークショップでは、導入の標準的な流れや考え方の理解とともに、作成の一連のプロセスを実際に体感していただけます。BSC導入を検討されている病院・施設の方や、既に導入されている病院・施設の方で方法や理論を再度確認されたい方のご参加をお待ちしております。

— BSC導入ワークショップ —

日時：平成24年2月25日（土）～26日（日）

会場：日本大学商学部（東京都世田谷区砧）

会費（1名）：20,000円（会員）・50,000（非会員）

参加受付 平成24年1月10日（火）より開始

※ グループワークのため、1施設3名様以上からのお申し込みとさせていただきます。（なるべく職種の偏りが無いようお願いいたします）

5. 第10回学術総会のご案内

テーマ：「病院のガバナンスと医療 BSC」

会 期：2012年10月27日（土）

会 場：国立オリンピック記念青少年総合支援センター
（東京都渋谷区）

学術総会会長：高橋 昌理（大駿河台日本学病院 副院長）

※プログラム等詳細については順次学会ホームページにてご報告いたします。

6. 投稿論文募集について

雑誌編集委員会では、学会誌への投稿論文を募集しております。詳細は、学会ホームページをご参照ください。

<http://www.hbsc.jp/index.html>

7. 平成23年度個人・賛助会費納入のお願い

平成23年度の年会費をまだ納めていない方にご案内をいたします。同封した会費未入金のお知らせをご確認下さいませようお願い申し上げます。なお、年会費の納期は平成23年4月1日から平成24年3月31日までとなります。

年会費 個人正会員：10,000円

賛助会員：100,000円（一口）

8. 本学会理事 故前田純典先生を偲ぶ

前田純典先生が、2011年11月3日午後5:00にご逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

前田先生は、本学会創設時からの中心メンバーとしてご活躍頂き、多大なご支援を頂きました。2002年に、大坂の八尾市にあります八尾総合病院にお伺いし、学会設立趣旨や今後の活動についてご相談申し上げ、医療BSCと学会創設に強く賛同して頂きました。その後、発起人、理事として学会のために様々な場面でご活躍頂きました。今、本学会がこのように社会から注目され、活動内容も充実してこられたのも、前田先生のお力があつたからこそ、と思っています。誠にありがとうございました。

直近では、第8回学術総会を学術総会会長森功先生とともに取り仕切って頂きました。また、2010年12月の台湾健康産業BSC管理協会と本学会の共同国際シンポジウムが台湾で開催された際は、前田先生の存在が如何に大きいかを実感した時でした。台湾医療界での前田先生への信頼の大きさと広さに感激しました。あるいは、前田先生が会場最前列に座っていらっしゃることで、日本側が大変重みを増したことを鮮明に記憶しています。また、シンポジウム会場の台中までの新幹線の中で、前田先生の鉄道に関するご造詣の深さに驚き、さらには、シンポジウム終了後、台湾側主催の30人ほどの仲間内の懇親会で、前田先生の歌声をお聞きしたことは、私たちにとって貴重な経験でした。

前田純典先生、天国から、日本医療バランスト・スコアカード研究学会を見守っててください。より良い医療・福祉施設経営に少しでも寄与できるように会員一丸となって邁進していく所存です。

誠に有難うございました。ご冥福を心からお祈り申し上げます。

高橋 淑郎

